

会

報

土と岩

No.5



中部日本地質調査業協会

土 と 岩

昭和38年9月

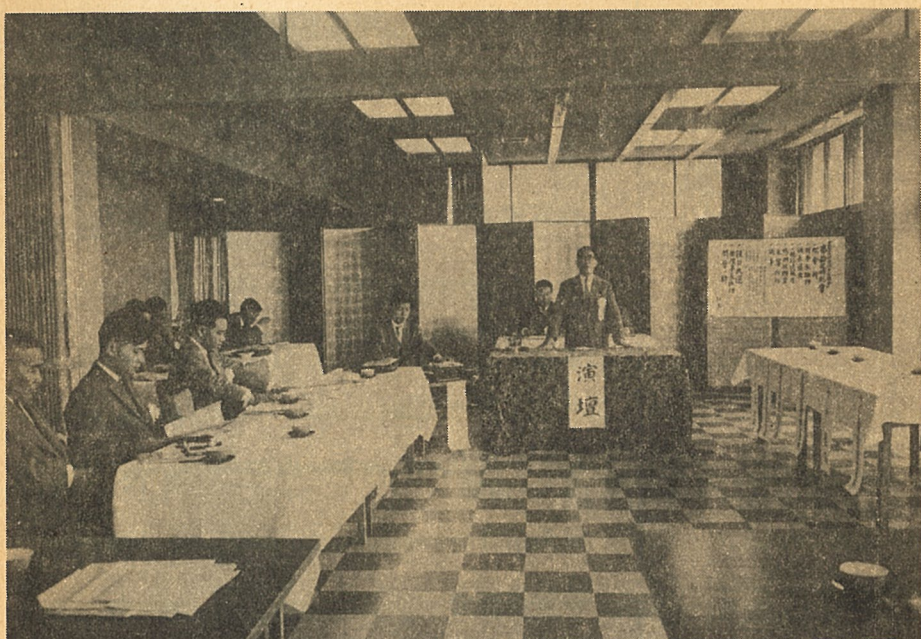
中部日本地質
調査業協会

— 目 次 —

第三次定時総会開催される	……	本会宣伝部
伝言板	……	本会宣伝部
理事長就任挨拶	……	小島 清
地質家として思うこと	……	山口 敏雄
声	……	会 員
これだけの本は是非読んで 下さい	……	伊藤明世
ボーリング用語	……	伊藤武夫
もう一度訪ねてみたい山の 湯 …… 岩間	……	長沢 徳
会員紹介	……	本会宣伝部
事務局通信	……	事 務 局
編集后記	……	本会宣伝部

第三次定時総会開催せらる

本 会 宣 伝 部



去る5月25日当協会は第三次定時総会を覚王山、東山会館に於て開催した。当日は名大松沢教授、名工大越賀助教授、愛知県建設業協会水谷専務理事、愛知県建築士会小川理事、日刑工業新聞中山次長、全国地質調査業協会大館副理事長を来賓としてお迎えした。

総会は横地理事の開会の辞に引続き、佐藤理事長が「全国組織の一翼をも担つて、互に技術の向上、設備の改善等を図り共に栄えよう」と力強く

挨拶、議長選出に入り伊藤監事（富士開発）が議長に選出された。以後伊藤議長のリードに依つて小松副理事長の一般経過報告のあと、当協会設立以来積極的に御協力を賜つた日刑工業新聞社中山中部支社次長に感謝状と記念品が送られた。

来賓の祝辞が終つて議事に入り

- 1、38年度決算並監査報告
- 2、38年度事業計画予算案
- 3、会則改正について
- 4、その他

を上程案通り可決した。更に役員選挙に入り小島新理事長が選出せられ「選出された以上全力を傾注する。各会員の協力を切に望む」旨の挨拶があり閉会、懇談会に移つた。尚本総会出席者は会員38名中32名（委任状5名共）にして決定をみた重要案中の概要は下記の通りである。

- 1、38年度事業計画予算 …… 別表
- 2、会則11条の一会員は会費として年間8000円（4回に分納）を納めるの8000円を12000円（同じ）とする。
- 3、新会員は下記の通り

理事長 川崎ボーリング 小島 清氏

副理事長 応用地質 伊藤 明世氏

〃 東邦鑿泉 伊藤 金一氏

理事 明治建設 平尾 勝氏 興亜開発 野沢秀男氏、東京ボーリング 横地忠蔵氏、土質調査所 小松幹男氏、日本鑿泉探鉱田井三治氏、

監 事 中京鑒泉 高木主税氏、富士開発 加藤 力氏 三氏

伝 言 板

会 員 広 告 募 集

- 1、今回会報を「土と岩」と改題し編集方法を変え外部へも
PR用として出しますので会員の広告を募集致します。
- 2、広告料は半ページ3000円と致します。
- 3、世は宣伝時代でありますのでふるつて御応募下さい。
- 4、原稿は当協会事務局へ提出下さい。
- 5、凸板代は別途となります。

卅八年度収支予算案	支出の部		収入之部	
	会議費	530,000	協会々費	480,000
	事務費	788,000	賦課金	2,000,000
	広告費	130,000	前期繰越金	502,738
	人件費	800,000	雑収入金	100,000
	交通費	120,000		
	事業費	450,000		
	厚生費	150,000		
	雑費	44,738		
	予備費	70,000		
	合計	3,082,738	合計	3,082,738

卅七年度収支決算書	支出之部		収入之部	
	会議費	249,969	前期繰越金	922,211
	事務費	679,588	賦課金	1,823,907
	広告費	119,120	協会会費	288,000
	人件費	691,200	入会金	10,000
	交通費	170,720	受取利息	4,940
	事業費	211,204	雑収入金	46,250
	厚生厚	112,074	広告収入	4,600
	雑費	467,347	予り金	4,052
	次期繰越金	502,738	借入金	100,000
	合計	3,203,960	合計	3,203,960

理事長就任挨拶

※ 小島 清

昭和38年度総会に於て役員改選にともない皆様方の御推選により理事長の椅子をけがさせていただくことになりましたことは不才不敏の私にとり、旬に光栄であるとともに、その重責を痛感するものであります。

初代理事長及前理
躍していただきまし
グの横地氏そして前
エルボーリングの佐
会の経験ともに深い
けまして、才能も経
この職を継ぎますこ
致しましたが、皆様
れます御熱意に対し
第です。



事長として御活
た東京ボーリン
理事長の中部ウ
藤氏と学識の社
方達のあとを受
験も少ない私が
とは非常に躊躇
方の私によせら
てお受けした次

協会も設立以来3年目を迎えて、基礎造りも年毎に固まつてきましたことは、関係官公庁はじめ建設部門のお得意様各位の御理解と歴代理事長はじめ役員、事務局そして協会員の皆様方の御協力の賜と御同慶にたえません前年度迄は皆様既に御承知の如く、例の北海道地下資源開発株式会社の我々業界への進出などがあり、入札参加のケースも45回ありましたが、何れも全国連合会が阻止得ましたことは、協会としての在り方、そしてその必要性をなお一層強く痛感した次第です。

我々の仕事そのものは、あらゆる構造物の地下土性組織を調べ又天然資源の調査と地味な商売ですが、本工事完成時の脚光は浴びないまでも完成したビル橋梁そして道路等を見る度に、苦勞した現場ほど、その喜びは大きいものです。この誇りがあればこそ、我々ボーリングマンとして縁の下の力持を自負出来るのだと信じています。

ボーリングの調査工法も年毎に新しい工法が導入され、未だまだ研究してゆく課題は多く、技術の向上を目指し協会としても研究部の中で大いにこの点も研究してみたいと思います。

何事に於いても和と云うことは非常に大切なことですが、一旦お互いに利害関係が生ずると和に近ずけることは、まことに難かしい問題ですが、協会に於ける和を一步づゝ築いてゆき和氣愛々たる協会とすることが私の念願でもあり、又私に課せられた使命だと思います。

その意味からも協会員であると云う自我意識を皆様方が、なお一層強くお持ちになられて協会に対する御希望なり御意見をドシドシ事務局へ連絡していただき理事会に計り、良きプランは予算の許す範囲で直に実行に移し又御指摘の点は御批判を仰ぎ、善処してゆきたいと思いますので皆様方の御協力を特にお願い致します。

協会は仕事で御利用になるのは勿論ですが娯楽設備も一揃つつありますので精々御気軽に利用していただきお互いの親睦に役立たれゝば幸甚です。協会の運営にかかる問題は、その道に対する私の才は甚だ無能ですが、才能に於ては今回副理事長に就任されました応用地質の伊藤氏そして東邦さく泉の伊藤氏と練達堪能な方が居られますので、その点私は大いに心丈夫

で安じておりますが然し、お引き受けしましたからには皆様方の御期待に背かぬ様専心することは勿論ですが、またこの重任を完うするには何といつても皆様方の御厚誼と御指導に俟たねばなりません。今后とも何かの御教導を頂き度く重ねてお願い申し上げます。

どうぞよろしく

○ 部会構成のお知らせ

本年度の部会構成は次の通りとなりましたので各部に対する御意見御希望は事務局或は担当理事に直接御申入れ下さいます様お願い致します。

- | | |
|-------|---|
| ① 総務部 | 各部の指揮統轄機関とし厚生新睦を担当。 |
| 担当 | 川崎ボーリング 応用地質 東邦鑿泉 東京ボーリング |
| ② 研究部 | 学術探究の為め有識者の講演、講習会 各社の優秀技術の公開。 |
| 担当 | 応用地質 中央開発 土質調査 |
| ③ 宣伝部 | 価格表の有効適切なる頒布、新聞広告、友誼団体に働きかけ、会報の内容向上、発注先開拓、協会再認識のPR。 |
| 担当 | 東邦鑿泉、興亜開発 日本鑿泉 |
| ④ 財務部 | 予算調整、融資関係一切 |
| 担当 | 東京ボーリング 明治建設 |

地質家として思うこと

明治建設興業株式会社

※ 地質部長 山口 敏 雄

協会から私に何か書くようにと伝言をきいたとき光栄には思つたのですが実のところハタと困惑しました。何をかいてよいか分らないし、また命題が決つていたとしても文章を物するような素養がないからです。私は今日までの半生を鉱山地質屋として、およそ文章などとは縁遠い生活を送ってきました。職を奉ずる会社のため、ひいては国家のためという思想のもとに、身の危険も省みずあらゆる困苦欠乏に堪えながら国内はもちろん、遠く東南アジアの山谷に地下資源の露頭を求めて歩き廻つたものです。ある時は熊の出没する北海道の山奥にキャンプを張つて石炭の調査に数月を過し、またある時は九州の南端にタングステン鉱を探して全身に汗して歩くというぐあいに、日本国内全土を歩き廻つたといつても過言ではありません。外地について言へば戦前には朝鮮、満州、北支の山野に金銀鉱を探し、戦時中には占領後間もないビルマの全土に酷暑と空襲とに戦いながら石炭の露頭を求め、戦後はフィリッピンに鉄鉱を、カンボジアに燐鉱を、印度にボーキサイトを、そして泰国に燐鉱を探して歩きました。科学は日に月に進み二三十年前には想像も及ばなかつた原子力の時代にまで発展し宇宙旅行も実現出来る時代にまでなつてゐるのに地質調査だけは／＼年／

日のように変わりません。物理化学的の探査法や試錐調査法は多少の進歩をしましたが地表の調査は依然として地質技師がクリノメーターとハンマーを持つて山に登り、谷を渡つて、岩石や鉱石の露頭を見出し、その性質ややり方を詳細に図面と野帖に記載するという方法です。そして岩石の分布やその在り方（構造）をあらわす地質図が出来上るわけです。この地質図を基礎として、より正確な資料を得たい場合に物理探査や試錐調査が施工されるわけです。

地形図を作るにも測量技師が山野をかけめぐつて実測し出来あがるものでその苦勞たるや言語に絶するものがあります。しかし最近は航空機から希望する地域の写真を撮影してこの写真から地形図を作成する技術が発達して測量技師が自ら山谷を渉しなくてもすむようになりました。大へんな労力と時間の節約になることだと思います。地質図も地形図が与えられただけで地質図が描けるようになれば鉱山の開発や土地地質の解明に貢献すること甚だ大であろうと思います。近年になつて地形図から地質を解読しようとする研究が行われ初めたことはよろこばしいことで、既に解読を公表し営業している会社もありますが未だ初期ですからその正確度がどの程度であるかは知りません。

航空測量による地形図をもつて実際に山野を歩いて見るとその図面の間違つている部分が度々あります。どうしても測量技師が真面目に踏査して得た実測図には及びません。地形図さえそうですから一見同じように見える岩石、現地を歩いて手にとつて見ても判別しにくいような岩石の分布を地形図から作るとは困難なことだと思いますし、たとえ完成

されたとしても地質専門技師が実際に踏査して出来上つた地質図には正確度においてかなわないと思います。してみると地質調査のうち地表の調査は永久にクリノメーターとハンマーとを持つた地質技師による外ないのではないかと思います。

地質図はあくまで地表の岩石の分布とそのあり方を地表にあらわれている資料だけから記載集録したもので、それが地下深所で如何なっているかは想像によるものです。なお詳細に知る要がある時には物理化学的探査法や試錐法がとられるワケです。物理化学的探査法は岩石の性質を利用して地下の構造や岩石のあり方を知ろうとするもので間接的方法にすぎません。しかし試錐は施工地点における岩石のあり方を実物を採取しながら調べるのですからこれほど確実な方法はありません。たゞ試錐で知られる地質は厳密に言えば広い地域の一点に過ぎないので広範な地域の地質を知る為には相当、数多くの試錐を施工せねばならぬ欠点があります。なるべく少ない試錐で事実を究めることが地質家の任務であると考えます。たとえば石炭の露頭を発見してもこれが地下深くどこまで、どの位の厚さでつゞいているか、またその品位はどの位かということは想像は出来ても確実に当てることは出来ません。この問題を明快に解決してくれるものは試錐以外にありません。構造物の基礎設計のための地質調査などは、なおさら地質家がいかに地表を歩いて想像をたくましくしても何の結論も得られません。これも試錐以外に結論を得る方法はありません。

かく考えてみると我々が従事している地質調査とは実に重大な責任のある、やり甲斐のある仕事だと思つています。ここで残念に思うことは試錐の方法や技術が他の科学に比べて進歩が遅いように思われることです。もつと手軽に容易に早くしかも確実に施工出来る方法と技術が得られないものでしょうか。そうすれば人類にもつともつと貢献出来るであらうと思います。試錐方法や技術の飛躍的発達の日の一日も早からん事を祈つて本稿を終りたいと思います。

◇ 声 ◇

過日協会事務所で雑談していたとき「一つ来年3月頃には協会主催でゴルフ大会をやつてみたら」と云う話が出た。世はバカンス時代、既にゴルファーの数は300万名を超えると聞くから大衆化しつつあるものとみてよく「よし今から始めよう」と云う人もあつた。来年の事を云うと鬼が笑うとも云う諺もあるが協会が主催する以上出来るだけ多くの参加者があつた方がよく今から始める人のためにも充分の練習期間があつた方がよいと云う主旨だそうだ。総務部のレクリエーション計画で是非取上げてもらい度い。

一会員

これだけの本は是非読んでください

応用地質 伊藤明世

—まえがき—

「中部日本地質調査業会」という名前はなかなかいかめしいが、通称「ボーリング協会」で通っている。正直なところ、この通称の方が、協会の実態をそのままあらわしていてなかなかよい。

地質学や土質工学の専門家が揃っていて、調査結果にもとづき、基礎の設計や施工の問題について解析したり、意見を述べる能力をもっているだけでなく、また技術革新、研究開発にも努力を払っている業者は、協会のなかには多くはいない。まず、半分以上の会員は、いわゆるボーリング屋さんであつて、解析などをもとめられたときは、どこかの大学の先生に依頼して報告書を書いてもらっているのが実情であろう。

大学の地質学の先生といつても、岩石学の専門家もいれば、層位学の専門家もいれば、また、古生物学の専門家もいるといったわけで、それぞれ専門を異にしており、しかも応用地質学、特に土木地質の方面に明るい人は少い。そのような先生達の作った地質図は、土木施工上の観点からながめた場合、全く役に立たないものになりかねないのであるが、調査目的によつて、どのような先生にたのめばよいかも

ろくろく考えず、とにかく大学教授の肩書さえあれば、権威のあるものだと思ひこむ、いわゆる権威主義のようなものが、業者側にも、発注者側にも根強く巣喰つているのは否定できない。

従つて、われわれ業者は、大学の先生からも大いに学ぶことは必要ではあるが、大学の先生ばかりをたよりにせず、自らも、土木と地質に関係のある諸知識を修得し、自らの技術力を高め、大体のことは自社の力で解決して行くように努めるべきだろう。

そうでなくて、ボーリングと標準貫入試験をノ年ノ日の如くやり、柱状図を一枚提出して「ハイそれまで」というのでは、何の進歩もなく、結局は競争にまけて、つぶれてしまうであろう。

また、業者自身、あるいは、現場のボーリングマン諸君が、ボーリング、原位置試験、サンプリングなどの目的と意義について充分理解していないため、調査結果が信頼度のきわめて低いものになつてしまうことも少なくないようだ。そのために、発注者の方は「ボーリングくらい当てにならぬものはない」とか「ボーリングほど金のかかるむだなことはない」と思いこんでしまわれることもあるだろう。

これでは、協会で「標準価格書」をつくつて適正価格のPRにいくらつとめても、片方では良い加減な調査をやつてゐる業者があるので、発注者は、なかなか理解してくださらないであろう。

発注者側も、地質調査、土質調査についての理解が足りないために、

不完全な仕様書にもとづいて、あれこれと指示される結果、業者が困らされる例も少くない。それは業者側にも責任の一半がなきにしもあらずで、現場説明のときに、疑問点を十分に明らかにしないままに、入札に臨み、契約をしてしまう結果、着手してから泣き言を云つても後の祭ということになるのである。

地質調査、土質調査は縁の下の力持的な地味な商売であるが、土木建築の施工上最も大切な仕事のひとつであるから、必要な調査については、充分金をかけなければならないが、業者もその金が無駄にならないよう、責任をもつた調査をしなければならない。

以上述べたようなわけで、業者も発注者も、地質調査、土木調査についての理解を一層深めていただきたいと思い、今回は、最少限これだけは読んでいただきたいと思う。地質調査、土質調査に関する参考書を御紹介申上げることにした。

I 地質関係

○ 地学入門(井尻正二 新堀友行編著 筑地書館発行 定価

定価 460円)

大学の一般教養課程を目標にして編纂されているが、従来の類書と異なる点は、人間生活と地学との関係という視点に立つており、従つて人間の生活の場である地表、ないしは地表に近い大地が中心テーマになつている。

そして、地質学と生産との結びつき、即ち、地質調査の各種の方法について説明してある。要するに「役に立つ地質学」の本であつてこれらは今までの地質学の教科書には見られない点であり、地質調査に関係のある人にとつては必読の書である。

この他に、是非一読をおすすめしたいのは

- 地球の歴史（湊 正雄 井尻正二 共著 岩波新書

定価 100 円）

- 日本列島（湊 正雄 井尻正二 共著 岩波新書

定価 100 円）

- やさしい地質（陶山国男・羽田 忍 共同執筆 雑誌「土木施

工」（山海堂発行）5月号より連載中）

II ボーリング

- 試錐ハンドブック（試錐ハンドブック編集委員会編

日本石炭協会発行）

昭和33年の発行で非売品となつており、現在は絶版になつてゐるものと思われるが、編集委員は鉱山関係の人が殆んどであり、内容はいうまでもなく、岩盤ボーリングに関するもので、試錐機械と試錐作業の実際についてくわしく説明してある。

- 軟弱地盤におけるボーリング（藤下利男著 山海堂発行

定価 430 円）

著者は運輸省港湾技術研究所の技官で、永年ボーリングとサンプリングを手がけて来られた人である。ボーリング、サンプリングに関する参考書としては、わが国始めてのものと云つてよく、ボーリング調査の設計の組み方、監督のし方にまでふれており、発註者にも是非読んでいただきたい本である。

Ⅲ 標準貫入試験

標準貫入試験は簡単な方法であるが、その目的と測定値（N値）のもつ意味が充分理解されていないため、案外により加減に行われているようである。一昨年JISとして制定されたのであるが、そのことも御存知ない方が多いようである。これについて書かれた単独の書物はないが、次のものは是非読んでいただきたい。

○ 日本工業規格「土の標準貫入試験方法」 JIS A1219-1961
之についてJISを見ていただければよいわけであるが、解説したものとしては

雑誌「土木施工」1962年7月号92頁「最近きまつたJIS」
（解説 陶山国男）

雑誌「建設」1961年8月号78～84頁「JISになる標準貫入試験」（陶山国男、中島秀雄、大矢 暁）

雑誌「土と基礎」Vol. 8 No. 6 「日本工業規格 JIS 土の標準貫入試験方法（案）」49頁

「同上解説」50～56頁（サウンディング試験法委員会）

Ⅳ 土質調査 土質試験

- 地耐力調査法（池田俊雄、室町忠彦共著 鉄道現業社発行
定価 180 円）

著者は鉄道技術研究所技師で、ボーリング標準貫入試験の他に、載荷試験、之らの調査結果にもとずき、支持力の推定方法が解説してある。小冊子ながら、よくまとめている良書である。

- 土質試験法解説第 1 集改訂版（定価 400 円）
- 土質試験法解説第 2 集 （定価 450 円）

何れも土質工学会の編集になるもので、第 1 集は主として物理試験について、第 2 集は力学試験および、各種原位量試験についてそれぞれ、方法と解説が書かれている。

軟弱地盤の調査に土質試験はつきものであつて、現場を担当する人も、試験の目的と意義を一応理解しておくことは、サンプリングを行う上において必要である。必ず座右に備付けておいていただきたい。

- 建築基礎構造設計規準。同解説（日本建築学会編・発行
定価 750 円）

建築構造物の規模に応じて A・B・C の 3 規準にわかれており、それぞれの規準で、地盤調査法及び、それにもとづく基盤の設計のし方が定められており、各項目にわたつてくわしい解説がついている。

建築設計者のみならず、調査にあたる者にとつても必携の書である。

- テルツアギ・ベック土質力学全2巻(小野薫・星望和・加藤 渉
三木三五郎共訳 技報堂発行 定価基礎編550円 応用編550
円)

現在土質力学の進歩は、全く之ら両著者に負つているといわなければ
ならない。両教授の手になる“ Soil Mechanics in Engineering
Practice”の訳書である。土質力学に関心をもつ者は必ず読むべき書
である。

—あとがき—

地質及び土質に関する参考書はまだほかにも挙げればきりが無いが
之だけは必ずというものとどめた。之らの書物によつて地質調査、
土質調査についての理解を一段と深めていただきたい。

そのような努力なしで、業者は、地質調査業者でございと大きな顔を
してもらいたくないし、発註者も、この程度の本を読まないで、業者
にたいして威張りちらすことはやめていただきたいものである。

おわりに、紙数の関係で、解説がきわめて不十分で、舌足らずに終
つてしまつたような気がするが、何卒おゆるし頂きたい。

伊藤 武夫

つい先だつての事である。協会事務所にて京浜調査の〇〇氏にお目にかかった。最初ふと顔を合わせた時「はて、どこかでお目にかゝつた事がある」と思つたが先方もそうだつたらしく小首をかしげている。どちらからともなく「玉さんと一諸の時でしたかなあ」「あゝそうそう」と云うわけで、十年程前日本国土開発の地質調査部にいた児玉氏と一諸に和歌山県新宮市の速玉館と云う旅館で一夜を共にした事があつた事を思い出した。当時の私は電源開発関係の仕事に可成りの関心をもつていたので十津川、北山川等所謂熊野川水系をよく歩いたもので児玉氏とは前記速玉館や奈良県風屋の花屋旅館で起拳を共にした事があつた。一見色浅黒く野武士を思わる風格でとりつきにくかつたが、話せば親しみやすく物事にこだわらない性格で当時23~24才の私の面倒を何くれとみてくれたので特に印象に残つていた。その後奥只見で不慮の死をとげられ年月も経ていたので忘却していたが〇〇氏との出会いから図らずもその夜は児玉氏の思い出話しに花が咲きのみ歩く結果となつてしまった。

その児玉氏がボーリング用語をよく使つた。

例えばこうである。朝、目が覚める。枕もとの眼鏡をふいてかける。そして「さあエンジンをかけるか」と少しかすれた秋田なまりの独り言を云つて立上つたものである。彼に依れば尿意をもよおすが「プレッシャーが上がる」放出は「バルブを開放する」大きい方は「コアを押出する」であつた。

当時はダイヤモンドボーリングの初期の頃でメカニカルセッティングをしたビットは多く輸入されていた。或る現場ではカナダ製のビットを使用していたのであるがマトリックスが非常にやわらかい。使用も不慣れの点が多くビットのインサイド、アウトサイドがよくやられる。特に最初の頃はコア結りを知らず押込むものだからスライムが大きくコトリックスのすぐ上で段がついたものである。彼はリーマーをつけたまゝのビットをその段のついたところから握りしめて「やられたなあ」と慨嘆したものである。彼によれば男のビットはⅨを標準にして凡てⅨプラスⅨマイナスで表現出来るそうである。巻脚畔に登山帽、ピクノメーターとハンマーをもつた彼によく同道したものであるが「スライムがたまる」或は「排除する」「湧水がある」或は「自噴する」「浅尺ボーリング」「スワーピング」「ロッドグリスをつける」「グラウトする」などの言葉が種々の話の中にユーモア豊かに折込まれて長道でも退屈しなかつたものである。

そう云う交友を通じてか私自身は日常会話に迄ボーリング用語が飛び出す程ではないにしても、少しでもだけた場所などでは「穴掘り、水揚げ専問」などと云つて紳士、淑女のひんしゆくをかつている。女性にもてない理由がそこにあるとすると無意識のうちにそういう面を培つてくれた地下に眠っている児玉氏に物申さねばならないが、それ迄の私は人の前へ出れば物おじする、或は四角四面の考え方、話し方しか出来なかつたもので少くともボーリングに興味をもちボーリングを業としてやつていこうと決意したものは児玉氏の口から出るボーリング用語とは決ずしも一致しない彼の真面目な人間性とボーリングに対する熱意であつたことは否定出来ずそういう面では彼には感謝せずにはいられないのである。

もう一度訪ねてみたい山の湯……岩間

日本鑿泉探鉱(株)

調査工事部 尾 沢 徳

金沢にいた頃のことである。

土曜の午後から事務所をぬけ出し下宿のおばさんにおにぎりを作ってもらい加賀は白山下行の始発駅白菊町に飛び込んだのはノ時近く。相当くたびれたポンコツ電車だ。

手取川にそつてノ時間半程で終点の白山下着、そこから車で30分ばかり行くと中宮温泉、ここは立派な旅館があり夏山登山客の他に一般客も時折訪れるところということだ。

さて中宮から先徒歩ノ時間余りで岩間につく。山小屋風の旅館がノ軒のみ、しかも7月8月の2ヶ月間だけ営業という小さな看板がのぞいていた。我々が訪ねたのはノ月上旬だから当然閉つており例の看板を横目でにらみ乍らしばらく休んでいると営林署の山男が通りかかり4Kばかり上流にヒュッテのあることを知つた。テント設営の手数がはぶけ大よろこび。紅葉のトンネルをゆつくり進むとすでに日の落ちた谷間に目的のヒュッテ「岩間荘」を認め一安心。

小屋には無論電気もなし。早速サブの中からローソクとランプを取り出し作業のくじを引きをしたところノ人は炊事担当、他のノ人は部屋の掃除

と団圪裏の手入、小生は月夜の中をたきぎとりと決まつた。準備〇K
野郎共三人は岩風呂へ突入、泉質は硫黄、湯量は充分。これで今日の
疲れもどこへやら、ただ色気がないのが残念！泉源は翌朝見に行くこ
とにし湯上り後は燃料の補給と相成つた。翌朝の起床を4時30分と
しシラフにもぐつたのが7時頃。谷川の音で起こされ虚な眼をこすり
ながら朝食を済ませた後外に出ると谷合のあちらこちらから湯気が立
ちのぼり早速近づいて見ると岩石（安山岩）のクラックより熱湯が噴
出し谷川全体が温泉をなしていた。ヒユツテにはここより2時のパイ
プを用い自然流下で浴槽に導入されていた次第。岩間荘と別れを告げ
た後有名な大噴泉へ向つた。ヒユツテからは15Kも歩いたろうか？
もう嶮ヶ峰も近いと思われるところだ。標識に従つて谷へ下ると無数
の噴泉が我々をビックリさせた。

谷川で汗を流した後弁当をパクつき白山下へもどつたのは16時。

帰りの電車では三人共コックリ、コックリ。

秋にでもなつたらもう一度出掛けたいと思う。

以 上

会員の紹介

本号より企画を一新し新しくこの欄を設けた

本会には会員として社が登録されて居り、各々自社の技術に全神経を集中してその技を誇っている。毎回3~4社ずつその内容、沿革から代表者の趣味なども紹介して見たいと思っている。

会 社 名 株式会社 管基礎
代表者名 管 誠 広
所 在 地 東京都千代田区神田錦町3丁目ノ7番地

営 業 種 目 (1) ボーリング 地質調査
(2) さく泉工事 グラウト工事
(3) 基礎及び上下水道設計
(4) ウエルポイント 排水工事
(5) 土地建物測量 設計 施工管理

沿 革 昭和34年3月6日 創業

資本金 200万円

昭和34年3月20日 都知事

(ほ) 19505号登録

昭和35年4月8日 建設大臣

(ト) 3601号登録換

昭和35年12月15日

資本金 200万円増資

昭和37年12月7日

資本金 200万円増資

会員の紹介

本号より企画を一新し新しくこの欄を設けた

本会には会員として社が登録されて居り、各々自社の技術に全神経を集中してその技を誇っている。毎回3~4社ずつその内容、沿革から代表者の趣味なども紹介して見たいと思っている。

会 社 名 株式会社 管基礎

代 表 者 名 管 誠 広

所 在 地 東京都千代田区神田錦町3丁目ノ7番地

営 業 種 目 (1) ボーリング 地質調査

(2) さく泉工事 グラウト工事

(3) 基礎及び上下水道設計

(4) ウエルポイント 排水工事

(5) 土地建物測量 設計 施工管理

沿 革 昭和34年3月6日 創業

資本金 200万円

昭和34年3月20日 都知事

(ほ) 19505号登録

昭和35年4月8日 建設大臣

(ト) 3601号登録換

昭和35年12月15日

資本金 200万円増資

昭和37年12月7日

資本金 200万円増資

取引銀行 日本勸業銀行津島支店

東海銀行津島支店

住友銀行津島支店

社 長 趣味 魚つり

————— 事 務 局 だ よ り —————

最近ある先輩の人より秒進分歩と云う言葉を知らされましたが全く始めての事でした蓋し何れとも進歩か退歩かどちらにしても好むと好まぬにかかわりなく時は進むと云う事でしょう。

私がこちらへお世話になりましてから約2年、頭初は知らぬ他国でほんとにめくら減法でした最初に示された年間予算が60万当協会の誕生にあたりお尽力頂いた皆様のお努力の程がさこそしのばれます。

本年3月初旬期末を迎えて予算の引当もなしに事務室の拡張をした折には一寸心配でしたが、「天裕この時至る」道路公団の発注がありまして予算のわだかりも一瞬に消し飛び蘇生の思でした。

続いて総会となり之は私として2回目の試練で幾分心のゆとりはありましたが皆様のお支援お鞭撻で恙なく終了しました。

同時に役員の交替があり齡3年を迎えました協会も愈々地歩を固めたその気構えを現し選考された役員も新進氣鋭の手腕家揃いで旧來の殻を脱皮して運営に研究に宣伝に適材適所の人材配置の上強力に押し進められる事になり本年は全面的に偉業の進展を遂げるものと期待するものであります。

二転三転の飛躍的發展をして來ました。「会報」がまた内外共に充実した姿でデビューする事になりましたので何分のお愛読をお願いします。

事務局ごよみそして下記に会と催しの寸記をいたします。

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 昭和38年4月4日 | 第25回定期理事会 |
| 昭和38年4月11日 | 東海ウエルポイント協会創立総会 |
| 昭和38年4月17日 | 東海ウエルポイント第1回理事会 |
| 昭和38年4月19日 | 全国地質調査業協会連合会総会 |
| 昭和38年4月23日 | 中部日本地質調査業協会臨時理事会 |
| 昭和38年5月4日 | 東海ウエルポイント協会理事会 |
| 昭和38年5月9日 | 中部日本地質調査業協会第26回定期理事会 |
| 昭和38年5月18日 | 中部日本地質調査業協会打合理事会 |
| 昭和38年5月25日 | 第3回中部日本地質調査業協会総会 ✓ |
| 昭和38年6月6日 | 中部日本地質調査業協会第27回定期理事会
打合会 |
| 昭和38年6月12日 | 日本ウエルポイント業協会中部支部臨時総会 |
| 昭和38年6月13日 | 中部日本地質調査業協会第27回定期理事会 |

昭和38年6月18日	中部日本地質調査業協会総務研究宣伝部 合同部会
昭和38年7月5日	中部日本地質調査業協会第28回定期理 事会議事打合会
昭和38年7月11日	中部日本地質調査業協会第28回定期理 事会
昭和38年7月17日	中部日本地質調査業協会宣伝部会打合会

===== 原 稿 募 集 =====

- | | |
|-------|---|
| 1 論 旨 | 技術発表、文芸作品、その他当協に対する御意見
等何でも結構です。 |
| 2 締切日 | 昭和38年8月30日 |
| 3 発 表 | 9月号本紙上、応募作品多数の場合には順次発表
致します。 |
| 4 その他 | 1 作品には社名、役職名、氏名を明記下さい。
特に紙上匿名を御希望の向は御指定下さい。
2 応募作品には薄謝を呈します。
3 送り先 当協会宣伝部宛 |

編集後記

当初事務局長加藤氏の御努力に依つてガリ版ずりの会報が発行せられその後表紙付きの現会報Ⅱノ～ⅡⅣが発行されて、過般総会の席にても「短時日の間によくそこ迄もつていつたものだ」と大館全国協会連合会副理事長からお賞めの言葉を載いている。此処迄に至る加藤事務局長の熱意は並々ならぬもので、一例を上げれば、中部地区にふさわしい表示をと云うわけで名古屋市の代表的風景たるテレビ塔の写真を撮るために、ノ日間程写真機をたずさえて、凡ゆる角度から写真をとりまくつたそうである。左三分の一程のところにあるボンポリ風の街路燈は本表示に興を副えるものとして同氏の御自慢でもある。

さてその会報も6月ノ8日本年度最初の宣伝部委員会に於いて、一段の飛躍をとげるための改正が論議せられ、

- 1 従来の会報は一部外部にも送られているが必ずしも当協会のあり方を示しているとは云えない。
- 2 会員に周知せしめるべき事項が現在の会報発行間隔では遅きに失する感がある。

の二点から今后は

- 1 現在の会報とは別途に「協会旬報」を簡単なガリ版ずりにして月3回発行し、理事会、各部会の決議事項、入札結果、等を速かに会員に知らす。

- 2 現在の会報は当協会の本旨に副つて出来る限り内容を充実し「土と岩」と改題し外部にもPR用として送附する。発行は年4回3、6、9、12、の各月とする。

の大綱が定められ理事会の承認を得て実施する事となつた。従つて本号は発行日を約一ヶ月程延期し急拠編集したもので不行届きの点が多々あると思いますが何卒御容謝の程お願い致します。終りに加藤事務局長のこれ迄の御苦勞に対し深甚の謝意を表すると共に、今後も一層の御協力を賜る様お願い致す次第です。

編集子

土 と 岩 38年6月号(非売品)

昭和38年7月30日発行

発行責任者 中部日本地質調査業協会宣伝部

名古屋市中区西新町西新ビル